

真田地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備について

真田地域協議会では、第一次上田市総合計画における真田地域まちづくり方針の一つである「地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備」について協議を進めてきました。

真田地域の路線バスは全線が赤字路線で、上田市ではバス事業者への補助や、バス路線の空白地域解消のためのルート変更などの施策を実施していますが、長期的な乗車率の減少が改善されなければ、将来的にバス運行が危ぶまれる状況にあります。

地域協議会では、平成 22 年 12 月に真田地域全戸を対象とした「路線バスアンケート」を建設課と共同で実施し、その結果を検討するとともに公共交通網の維持について協議を重ねてきました。

また、昨年 10 月には路線バスの利用促進に向け「真田地域公共交通利用促進協議会」が設立され、地域を挙げての活動が進められています。

このような状況のなかで路線バスを維持するための取り組みとして、下記のとおり提言いたします。

記

(1) 利便性に配慮し地域住民のバス利用を促進

利用者の利便性に配慮し、運行時間やバス停について特に交通弱者の方々が利用しやすい時間・場所にしようバス会社と協議するとともに、住民に対しては利便性を伝え、乗ってみようと言う気持ちが生じるよう積極的な働きかけをすること。

また、乗車率の向上策として、需要調査により利用が見込めるようであれば、自転車通学生徒が帰宅時にバス利用できるように自転車持ち込み可能な形態の車両の導入検討と、遅い時間帯のバス運行を提案する。

(2) 観光客のバス利用を促進

菅平高原線を以前のように観光客の乗車で黒字路線にするため、効率的な観光スポット巡り路線をバス会社と協議すると共に、観光客受け入れの拠点施設としての「ゆきむら夢工房」と案内看板・史跡説明看板を充実すること。

具体的には、朝・夕の通勤・通学時間帯を除き、菅平高原線を真田氏の史跡を巡るルートに迂回し移動の利便性を図ると共に、「バスで巡る真田の郷史跡」を全国発信する事を提案する。

また、お客様の真田氏に関する知的好奇心を満たすため、史跡の歴史案内板設置とカメラスポットや「バスで巡る真田氏史跡」のパンフレットを作成するとともに、夢工房には日本一の真田氏^{ひのもといち}関連お土産コーナーや常設食事処を開設し、観光の三大要素「観光地を観る」「お土産をかう」「ご当地の食事を食べる」を充実し、観光拠点施設とすることを提案する。